



2026年10月7日
南陽市
公益財団法人イオン環境財団

第2回 山形県南陽市 山林火災復興植樹を開催

山形県南陽市（市長 柴田正人）と、公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田元也 イオン株式会社取締役兼代表執行役会長 以下 当財団）は、10月14日（水）に、山形県南陽市 山林火災復興植樹を開催します。

当財団は、2010年から3年間南陽市赤湯地区の十分一山^{じゅうぶいちやま}周辺の森林が松くい虫の被害を受けたことを受け、森の再生を目的として山形県および南陽市と「やまがた絆の森（南陽イオンの森）協定」を締結し、約1,000名の地域ボランティアの皆さまとともにオオヤマザクラ、ケヤキ、モミジなど5,100本を植樹しました。

また、2024年5月に十部一山の向いに位置する秋葉山が大規模な山林火災の被害を受け2025年から山林火災復興植樹を始めました。1回目の植樹では、200名の地域ボランティアの皆さまとともに、イチョウやスギなど1,000本を植樹しました。

2回目となる本年は、秋葉山の最寄にある南陽市立宮内小学校の児童を含む約200名のボランティア皆さまとともに、1,500本の植樹を行います。

当財団は、今後も被災地復興のため積極的に取り組んでまいります。

記

日 時	2026年10月14日（水） 9:30～12:30				
場 所	開会式	南陽市向山公園（南陽市宮内1580）			
	植樹	南陽市宮内字4397-406地先他			
植 樹 本 数	1,500本 （イチョウ・ヤマザクラ・ヤマモミジ・ツツジ・カラマツ）				
参 加 人 数	200名				
主 催	南陽市 公益財団法人イオン環境財団				
協 力	米沢地方森林組合 イオン東北株式会社				
出 席 者	農林水産省 林野庁東北森林管理局	置賜森林管理署長	金 晃弘	様	
	山形県 置賜総合支庁	支庁長	安達 晃司	様	
	米沢地方森林組合	代表理事組合長	川合 要一	様	
	南陽市	市長	柴田 正人		
	イオン東北株式会社	取締役会長	柴田 祐司		
	株式会社サンデー	代表取締役社長	大南 淳二		
	公益財団法人イオン環境財団	専務理事	山本 百合子		

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（名誉理事長 イオン株式会社 名誉会長相談役）により日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として1990年に設立されました。以来、「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の4つの事業活動を中心に活動しています。現在は、持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組んでいます。

【植樹事業】

万里の長城での植樹をはじめとする植樹活動は国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに活動を実施しています。当財団の植樹を含むイオン全体の植樹本数は1991年から累計約1,287万本（2026年2月末時点）となります。

【東北における植樹活動】

■山形県南陽市

①2010年～2012年 南陽市赤湯地区 十分一山周辺



2010年 第1回植樹



2026年 植樹地

②2025年～ 秋葉山 山林火災「復興」植樹



2025年10月 第1回植樹

■宮城県石巻市上釜ふれあい広場（2012年）

東日本大震災で津波被害を受けた上釜ふれあい広場にて、1,600名のボランティアの皆さまとともに、タブ、シラカシ、ツツジなど地域に自生する苗木15,000本を植えました。

■宮城県石巻市石巻南浜津波復興祈念公園（2019年～）

東日本大震災により甚大な被害を受けた石巻市南浜地区で、国、宮城県、石巻市が一体となって整備する公園にて、2019年より「復興の森植樹祭」に参画し、2028年まで植樹・育樹・環境学習を継続します。これまでに約47,000本の植樹を行いました。

■宮城県亘理町（2016年～2018年）

東日本大震災の津波により流失した海岸防災林の再生を目指して宮城県が推進する「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」に賛同し、2016年から3年間でボランティアの皆さま3,100名とともに、クロマツ、コナラ、ヤマザクラなど44,500本を植えました。

■福島県いわき市（2017年）

福島県いわき市と締結した「森林づくりに関する協定」に基づき、東日本大震災により流失した防災海岸林ならびに沿岸部の再生を目的として、700名のボランティアの皆さまとともにクロマツ、ヤマザクラ、トベラなど7,000本を植えました。